

タイプ * 協力・特殊型

リミット * 3 サイクル

プレイヤー人数 * 4 人

舞台 * 昭和 57 年、日本

* * *

われわれは何処から来たのか
われわれは何者か
われわれは何処へ行くのか

* * *

訃報

菊池豊三郎氏（きくち・とよさぶろう =K製薬名誉会長）七月某日未明、S 県N市の病院にて死去。行年七十八歳。通夜は某日午後七時から、葬儀・告別式は某日午後一時から、いずれも都内S寺阜斎場で。菊池家とK製薬との合同葬として営まれる。喪主は妻——さん。

故人は明治三十七年三月四日、IDF財閥傍系・菊池家に生まれ、戦時は満州出兵、戦後にあつてK製薬を経営、戦後復興に尽力した。御家族は密葬を望まれたが、K製薬幹部の強い後押しがあり、此度の運びとなった。送名は曉徳院釈正厳居士。

* * *

葬儀から約一ヶ月後。昭和五十七年 八月某日。S県N市Y群。

山間深くにぽつりと佇む擬西洋風建築の邸宅「根堅館」に、2人の旅行者が訪れた。広間に飾られたゴーギャンの複製画は悩める者たちを見下ろし問いかける。

* * *

われわれは何処から来たのか
われわれは何者か
われわれは何処へ行くのか

* * *

そしてまた、人が死んだ。

根堅館シーン表 (2d6)

2 どことも知れぬ暗闇の中。すぐ近くに、誰かが潜んでいる気がする。

3 館の片隅に位置する、手狭な和室。仏壇には、なぜか位牌が置かれていない。

4 美しい庭園。丹精こめて育てられたであろう色とりどりの薔薇が風雨に穿たれ、無残に花卉を散らしている。

5 あなたは階段でふと足を止め、振り返った。誰もいない。... 錯覚だろうか？

6 あなたに割り当てられた寝室。高級家具一式は手入れが行き届いているが、なぜか荒涼とした印象を受けた。風雨が力強く窓を叩く。

7 エントランスホール。年代物の柱時計の時報が響く中、ゴーギャン「我々は何処から来たのか ...」複製画が異様な存在感を放つ。

8 食堂。時代がかつた暖炉が目新しい。長い食卓の上は年代物の燭台や花で飾られている。

9 長い廊下の途中。風雨が勢いよく硝子窓を叩く。まだ、嵐は止みそうにない。

10 戯れに遊戯室へ入ってみた。煙草の臭いにむせ返る。そこには撞球台や全自動麻雀卓、何組かのランプが散らばっているポーカーテーブルがあった。

11 古紙と埃が薫る書斎。古今東西の名著がぎっしりと棚に並べられ、机上には乱雑に本が積まれている。

12 離れの礼拝堂。見上げれば穏やかに微笑む、聖母子のフレスコ画。だが、その両瞳から紅が滴っている ... いや、目の錯覚か。

Handout

名前 PC1 (推奨:記者)

あなたは旅行者だ。友人である NPC「森田」と車で移動中の夕方、人里離れた山間で車が故障してしまう。野宿を覚悟したそのとき、近くに人家の光が見えた。どうか一晩、この「根堅館」に泊まらないものか。

あなたの使命は【無事に館を出る】ことだ。

Handout

名前 PC2 (職業:未亡人)

あなたは約2年前、故人・菊池豊三郎の後妻として迎えられた若い女性で、今ではこの「根堅館」の主人だ。世間を離れ、人里離れたこの館で使用人の他、孤独に暮らしている。あなたの使命は【静かに暮らす】ことだ。

この辺鄙な館に訪れるとは珍しい。困ったときはお互いさまか。

Handout

名前 PC3 (推奨:なし)

あなたは故人・菊池豊三郎の子供 (or 孫) であり、今この「根堅館」に滞在中だ。いささか退屈していた折、偶然にも来訪者たちが現れた。あなたにとって、彼らは良い退屈しのぎになるだろうか？ あなたの使命は【退屈を紛らわす】ことだ。

Handout

名前 PC4 (職業:使用人)

あなたは代々菊池家に仕え、今ではこの館に勤める忠実なる使用人だ。来訪者の存在はあなたの仕事を増やすだけではあるが、奥さまの命令ならばやむを得ない。あなたの使命は【来訪者たちをもてなす】ことだ。